

## 第1回東名遺跡整備指導委員会 議事録

### 【開催日時】

令和4年9月1日（木）13時00分から16時00分

### 【開催場所】

佐賀市エコプラザ2階会議室

### 【出席者】

【委員】 本中 眞・小畑弘己・金原正明・赤司善彦・三島伸雄・有岡大介・  
山田 聡

【事務局】（佐賀市副市長）白井 誠  
（地域振興部長）宮崎圭子、（文化財課長）木島慎治  
（史跡整備係長）角信一郎、（史跡整備係）西田巖・古賀章彦・楠本正士・  
中野 充・権丈和徳

【助言者】（佐賀県文化財保護室）渡部係長

【オブザーバー】（国土交通省武雄河川事務所）宮崎専門官

【関係者】（佐賀土木事務所）執行副所長、松本主査  
（NPO 東名縄文の会）江島理事長、藤原事務局長、塚部  
（佐賀市建築住宅課）川浪課長、古賀副課長、富田主査、藤井主査  
（佐賀市教育総務課）中原主査、（佐賀市道路管理課）竹下主査  
（佐賀市河川砂防課）田中主査、（佐賀市観光振興課）溝上課長

### 【内 容】

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 あいさつ
- 4 委員長・副委員長選任
- 5 委員長・副委員長あいさつ
- 6 議事
  - (1) 委員会の目的と全体スケジュールについて
  - (2) 先行計画を踏まえた整備事業の方向性について
  - (3) 東名遺跡ガイダンス・埋蔵文化財センター建築等基本設計について
  - (4) 東名遺跡展示基本設計について

## 1 開 会

## 2 委嘱状交付

## 3 あいさつ

## 4 委員長選任

事務局推薦により、委員長に本中委員、副委員長に小畑委員を選任。

## 5 委員長・副委員長あいさつ

## 6 議 事

### (1) 委員会の目的と全体スケジュールについて

### (2) 先行計画を踏まえた整備事業の方向性について

#### 【資料を基に説明】

【質疑応答】 ●…委員 ○…事務局 ■…オブザーバー（国交省）

- ：整備基本計画の基本方針で「未来へつなげる 縄文のタイムカプセル」とあるが、埋蔵文化財センターの計画では、3本の柱になっていて「観光」というのが入っている。この「観光」というのはどういう考え方なのか。例えば、修学旅行生だけを取り込んでいくのか、一般の人にも来てもらうのか、「観光」と漠と言ったときに、どういったものを狙うのかということがもう少し見えないと、どう提言していいかがわかりにくいし、施設自体が、もっと人を外から集めたいのか、一般の人が寄るような場所にしたいのか、この辺のイメージを教えていただきたい。
- ：それは計画段階でも議題に挙がっていましたが、修学旅行生なども来るような施設で、しかも観光客も見学に来てもらえるような場所ということで、観光なら観光を目的にするべきではないかという意見もあったが、教育と観光のどちらかを目的にすることが難しく、計画段階では明確にしていない。
- ：今回の施設は、学習的な要素だけがあるようにしか見えない。よほど関心のある方しか来ない。ましてや遺跡は全て土の下にあるという状態なので、正直、このままだとコアな歴史ファンしか引きつけられないのではないかと思う。これがこのまま進んでいくというのが大前提であるのか、それとも本当に一般の人を集めようと思うのであれば、もう少しテーマ性などを広げるような議論をする余地があるように感じた。
- ：整備計画の時も、運用面で観光を取り入れていくような考え方になっている。計画段階では、施設整備について具体的なところまでできていないのだが、運用面で観光客を誘導するような活用策を検討していくということにしている。
- ：例えば、キャンプサイトとしては使えないのか、魚釣り好きをターゲットにすることはできないのか、飲食のスペースはつくらないのかなど、こういったことは今からまだ入れていく余地はあるのか。

- ：整備費用などから、施設のハード面に大きく関わってくるようなものでなく、イベントなどの活用や運用の面は大丈夫だと思う。
- ：こういうことは、委員会の中で議論して進めた方がいいと思うが。
- ：埋蔵文化財センターの計画には「観光」というのが位置づけられていて、東名遺跡整備基本計画には「観光」というのが非常に薄くなっているのが実態だ。だから、細かな方向性が矛盾していたり、あるいはつながっていなかったりしている。今指摘されたように、施設面で何を準備していくのかという時に、「観光」をどう捉えて、どういう範囲で考えていくのかということはとても大事な部分だと思うので、むしろ、こういうふうにしていくことが佐賀市の本当の「観光」にこの史跡が生きてくる方向だと、そのための施設整備はこうあるべきだということをこの場で議論した方がいいだろう。もちろん、できることとできないことがあるのだろうが。それを委員会で議論して方向性を出していくのが筋だと思う。その辺のところも含めて意見を出していただければと思う。
- 佐賀市の中で観光のルートがどうなっていて、この遺跡がどういうルート上の位置づけになり、どういうキャパシティをここで想定されて、史跡の活用とどうリンクしていくのかというところが、先ほどの説明の中からはあまりうかがえないようだ。だから、そういう全体の流れの中で、「観光」、来た人にいかに快適に、東名遺跡の歴史もそうだし、歴史ではない部分もあると思うが、そういったものを楽しんでもらったり、場を提供していくということが、どういう方向であり得るのか、そこがよく見えない。
- ：計画段階では具体的なところまで議論が進んでいないので、可能であれば、この整備指導委員会で、そういう議論もしていけたらと考えている。
- ：観光や活用の面で意見があれば、提案していただきたいと思う。
- ：東名縄文館については、佐賀市内の小学校、例えば4年生などが学校の授業に合わせて、歴史を学んだ時に校外学習で来るというようなこともあるかと思う。新しい施設でもそれを狙っていくということであれば、そういう方向性での整備の在り方があると思うし、あるいは、もう少し交流人口を増やしていこうということであれば、例えば、吉野ヶ里遺跡が弥生時代という位置づけで、東名遺跡が縄文時代、8000年前ということで非常にインパクトがあると思うので、点ではなく面を考えて、吉野ヶ里遺跡と連携した中で、一帯のエリアとして外の人に訴求していくような在り方も考えられるのであれば、このありようというのも少し変わってくるかと思う。現状では、現地を整備していくのは大変だろうと思うので、例えば手前の第6貝塚は体験ゾーンや、あるいは市民の方々の憩いの場のような形にして、そのままの景観を残すこともありだろうし、そのあたりがどうなるのかというところで大分変わってくるのかと思う。
- ：それについては、市民参加型ワークショップを計画していて、その意見も参考にしたいと考えている。また、計画策定時のパブリックコメント 300 件以上の意見をいただいております。吉野ヶ里遺跡との連携の話も当然意見として出されているので、進めていきたいと考えている。吉野ヶ里遺跡に限らず、佐世保に旧石器時代の福井洞窟というガイダンスが最近オープンし、さらに八女市にある岩戸山古墳のガイダンスも3年ほど前にオープンしたばかりで、旧石器から縄文、弥生、古墳とつないでみてはどうかという意見もあ

る。そういう運用や活用については今から考えていきたいと思っている。

また計画段階では、観光の話も出たが、教育に軸足を置いて、さらに観光客も呼びたいという考えで内容をまとめている。

- ：他の遺跡とのネットワークでどういう要請を受けていくのか、それは計画段階のパブリックコメントで意見集約をしているので、それに対して応えられるような内容について、これからまとめるということが1つと、もう1つは、教育を中心としたプログラムの提供が中心になるけれど、そこに他の遺跡とのネットワークも含めて、子どもたち以外、教育以外のメニューというものをどう組み入れていけるのかということについても事務局の方で案を考えていきたいということの良いか。
- ：はい。
- ：その2本立てでやっていく上で、どういう案がいいか、あるいはどういうところに留意してほしいかということについてはいかがか。
- ：「水辺」は今すごく注目されている。この遺跡の面白さのポイントというのは8000年前に水辺に人が集まって暮らし始めた場所というところで、そして今いろんな世の中の場面で、防災も含めて「水辺」というものに対して、いろんな人が接近している。そして、「水辺」の遊びというのも今すごく発達してきているので、学校の授業だけではなくて、人を集められる要素は「水辺」ではないかと思う。そういう目で見ると、あの場所はすごく面白いと思う。市民参加型のワークショップをやって、意見を求めたとしても、バラバラになってしまう。例えば「水辺」など、そういうキーワードをコンセプト化した上で色々な人たちに投げかけるなど、ある程度整備の方向性を出さないとなかなか意見が形にはなりにくいと思う。1つの案だが、「水辺」というワードは、今キャンプや釣り、ただ単にくつろぎの場所など、色々な意味で面白いと思う。
- ：色々な提案が出てきたが、「水辺」に関しては非常に魅力的な場所だという印象を持っている。何とか「水辺」を渡っていくような取り組みができないかと思う。現在、第6貝塚に行くか、第3から第5貝塚に行くか、どちらかに動線が分かれているが、それをつなぐような水辺のルート、ある一定の期間だけでもいいので、水に近く接するタイミングというのが来た人に提供できないのかと思った。
- ：地元の方々からの意見だが、第6貝塚から第3～第5貝塚までを船で渡すという意見もある。実現化ができるかどうかは検討しないといけない。
- ：当時の生業を含めた立地に関連することとして、現在の有明海と変わらない干潟が遺跡周辺まで迫っていて、そこで貝や魚を捕っていることが1つある。もう1つは、その背後にイチイガシのうっそうとした照葉樹林が台地状になって広がっているという景観がある。原風景としては照葉樹林があって、それを抜けると干潟がある。今と違って、照葉樹林が干潟の近くまでありながら、その周辺は、人の活動と海の影響で二次林的な様相になっているという感じだ。今の干潟とタイアップしたような活用も考えられるし、森林でのキャンプも流行っているようなので、原生的な森林との兼ね合いで何かイベント的な活用ができないかと思う。うっそうとした森林を抜ければ干潟が広がる、貝塚が広がるというイメージができるような整備・活用ができないかと思う。

- ：今、幾つかのサジェスションがあったが、干潟と森、照葉樹林からなる風景、それを当時の風景としてイメージできるような、そういう機会をつくっていくということだったと思うが、なかなか現状の中で木を植えたり、水辺を渡っていくとか、水に近づいていくというのが難しいところがあるとは思いますが。
- ：まずは調整池という制約の中で一体何ができるのか、やはり前提条件を見据えた上で議論していかないといけない。イベントのようなことはできるとは思うが、恒常的に市民の方が来て、あそこにテントを張っていいのかどうか、安全上の問題もあるし、管理上の問題も出てくるので、調整池の制限の中で最大限の工夫をするべきだと思う。計画策定段階でもこういう議論をしてきたが、どうしても制約があるので、散歩ぐらいはできるが、あそこにテントを張って、火を焚いていいのかという問題もあるし、そういったところをしっかりと見据えるべきだと思う。
- ：国土交通省としては、具体的な、こういうことをやりたいんだという聞き方をしないと回答が難しいと思う。いろいろ考えて、それをぶつけて、可能かどうかを検討していくという形になると思う。
- ：そうすると、その案をまずはつくらないといけないという話になる。幾つかの案が出てきたが、今日、国土交通省も出席されているが、どのような感触をお持ちか。やれることとやれないことがあって、包括的にしか答えられないと思うが、感触を聞かせてほしい。
- ：河川という位置づけなので、基本的には自由使用という考え方である。しかし、人工的に水を上げ下げしているので、水面については使用禁止という立場ではある。
- ：使用に関する制限があるということだが、時間に制限があれば、水面の利用ができるということでもないのか。常時無理ということになっているのか。
- ：水面については常に使用禁止ということになっていると思う。
- ：制約はかなり厳しいようだが、それを前提にした整備と活用の在り方を考えていく、観光の在り方を考えていくということが前提になる。今の条件を踏まえて、市民参加型ワークショップの中で出てきた意見もまとめてもらって、大体どういう方向で行くのがいいのか、あるいは事務局としてもやっていけそうなのかということをもとめていただきたい。まとまった段階でもう一度、管理者である国交省と協議をさせていただくことが適当だと聞こえたが、それでよいか。
- ：はい。
- ：本当に観光を狙っていくんだったら、もっと違う考え方をしていけないと思っている。

ここが発掘された経緯は面白いと思っていて、水害があって、水の調整をするための調整池を掘っていったところ、遺跡が出てきた。そういう経緯、水害に絡んだ場所だということはずごくユニークだと思う。他の吉野ヶ里遺跡や東北の縄文遺跡にもないようなストーリーを持っている。ただ、そういう経緯などを見せていくような計画になっていないようなので、もっとアピールしていてもいいと思う。

資料 5-2 で、ガイダンス施設から史跡地まで、どう人を誘導していくのかという話が

あったが、誘導する人はどういう人なのかというのがわかりにくく、観光客だとしたら、そこにすごく魅力がないと行かないという気がする。こういう施設を勉強する子どもたちを対象とするのであればわかるが、誰をターゲットにしているのかがわかりにくい。議論がしにくいので、そこをもう少し明確化した方がいいと思った。

- ：なかなか第3～第5貝塚まで行くのは、一般の観光では少ないと思うし、修学旅行で来ましたといった時に、1キロ歩くのかというと、正直厳しいと思う。第3～第5貝塚がどういうイメージなのかは、なかなか見えにくいと正直思っている。
- ：水辺を少し楽しみたいという人はガイドンス施設にも入らないし、直接水辺に行くと思うし、こちらが誘導してという意識はあまり持たない方がいいと思う。魅力があれば行くので、その辺はフリーに考えてもいいのではないかなと思う。
- ：幾つかの意見が出て、その中には本質を突いているものもかなりあったのではないかなと思う。観光を考える上でも、ターゲットを絞って、どういう形で場づくりをしていくのかということがとても大事だという意見に聞こえたので、その中でどういうふうに柱立てをして、観光の側面からメニューをつくっていきけるのかというところにかかっていると思う。
- ：事務局に質問だが、ある程度、皆さんの案が基本設計に関わってくると思うが、今後のスケジュールの中で、こうやってフリートークをして、それがある程度の案になって出てきて、それを検討するという形で進めていくのか、タイムスケジュールはどうなっているのか。今後、何か事務局から案が出てきて、それをもみ合うのか。今は基本計画についての意見で、その基本計画は今後の設計に大きく反映していくと思うが、委員会のスケジューリングと私たちがどこまで何を言えばいいのかというところを教えてください。
- ：委員会は今年度3回行う予定であり、今年度中に基本設計をつくる予定にしている。今年度はあと2回しかないので、フリートークで議論して、それを煮詰めていくという時間はそれほどないと思う。基本的に事務局から提案をさせていただいて、それに意見をいただくという形がベストだと思っている。それ以外に色々な意見を出していただければ、それを取り込んでいくという形で進めたい。
- ：次回の委員会で、その素案が何か出てくるのか。
- ：そのつもりである。
- ：今回は、フリートークをしておけば、次回の提案にそれを取り込んでもらえるような、そういう場と考えればいいのか。
- ：はい。
- ：今回は、今まで考えてきたことをまず出してもらって、その中からできることとできないことを事務局の中で整理をしていただいて、そして案をつくっていただく。それが次回の委員会に出てくるという理解でいいか。
- ：はい。
- ：できることを色々語るのはいいいのだが、ソフト面も今回の基本設計の中でつくっていくのか。

○：ソフト面を踏まえたハードの設計になる。

●：例えばソフト面でどういう催しをやるか、教育・学習活動をやるかということも基本設計に盛り込むと思うが、それに対して事務局はどのような体制や予算で運営していくつもりなのか。建物をつくった、それから展示もつくった、施設もつくった、それを動かしていくのは人だから、それがないと無謀なものをつくれないし、しかもソフト面というと、膨らませようによってはどんどん膨らむ。実際、現実的に働く人がいなくて、どうにも動きがとれないということになりかねない。これは両輪だと思う。埋蔵文化財センターと東名遺跡ガイダンスの複合施設であるので、具体的に言うと、センターの職員がどういう仕事割りで、誰がその事業をやるのか。例えば埋蔵文化財センターの機能としては、主に調査があり、収蔵管理、そして啓蒙普及、保存修復などを考えると、センターの事業関係と東名遺跡のことを同じ人間がやるのかなど、その辺が全然見えない。それからマンパワーがどれくらいあるのかというのが一番気になるところなのだが、どのようなイメージで埋蔵文化財センター・東名遺跡ガイダンスを動かしていくのかということ、できれば次回までに提案していただきたい。

●：今、重要なお指摘をいただいた部分は、この後の埋蔵文化財センターと東名遺跡ガイダンスの展示計画や、それをどのようにオペレーションしていくのかという問題と深くリンクしていると思うので、今の質問、それから意見に対して、どう答えるのかというのを休憩時間に考えていただきたい。一旦休憩をとった後、議論に入っていきたいと思う。

### (3) 東名遺跡ガイダンス・埋蔵文化財センター建築等基本設計について

#### (4) 東名遺跡展示基本設計について

##### 【資料を基に説明】

【質疑応答】 ●…委員 ○…事務局 ■…オブザーバー（国交省）

□…関係機関（東名縄文の会）

●：休憩前に行った議論も踏まえて、今回の東名遺跡ガイダンス・埋蔵文化財センターの中身、骨格について、議論を進めたいと思う。気がついたところについては意見を出していただき、それは事務局への宿題になる。事務局の方で、できることとできないことを整理し、次回の委員会で再提案していただくと理解しているので、意見を出していただきたい。

●：私が勤めているところは、まさしく埋蔵文化財センターと博物館が一緒になっているところで、今年から2課が1つの課になった。結局、運営には、大体50数人が当たっている。観光面などを考慮すると、そのくらい必要になる。館長として務め始めた頃は、あまりにもおぎなりの施設だったので、「これは何をしたいの」というところから始めたのだが、今は、「空中ブランコ以外は何をやってもいい」と言っているで、赤ちゃんのはいはいレースなども行っている。先ほど話があった体験学習には3名の職員が当たっているし、ボランティアだけでも2名というふうに、とにかく人が要るので、体制が大事だ。ただ、これはどっちが先かの問題で、基本は行政としてはある程度の人数が当

て込まれて、できることとできないことの中で、徐々に増えていったり減ったりしていくということになると思う。

それから観光という点では、我々もいつも悩ましい問題であるが、ただし、こういう施設は、まずは縄文のかけがえのない遺跡だということで、その魅力をどう出すかが第一になる。あとは、どんな人に来ていただけるか、これはなかなか難しい問題で、できればとにかくたくさんの人ということになる。例えば修学旅行であれば吉野ヶ里遺跡と一緒に組み込めればいいのだが、それが現実的にできるのかできないのかよくわからない。それから、人を集めるのはイベントをとにかく打っていくしかないと思う。それでも大体、年間10万人は来ていただいている。平日も色々な人が応援に来るという珍しい館なのだが、土日になると大体館内がいっぱいになるという状態である。それは何かのイベントをやっているということが大きいと思うので、人を集めて観光でもとなると、本当に力を入れないと魂が入らない館になるというのはご指摘のとおりだろうと思う。そこはこれからの考えどころだと思う。

設計の説明を聞いて、何となくの施設整備だけはやめた方がいい。ある程度ターゲットを決めて、駄目になったらまた変えればいい。最初はとにかく色々な人の知恵を聞きながら進めてほしい。行政は大体やらない方向が得意なので、行政では無理だと思う。教育委員会以外の色々なプロジェクトチーム、確か私が勤めている施設の場合は、そういうプロジェクトチームをつかって、各課からやる気のある人たちを集めて、色々なことを考えたと聞いている。多分そういう人たちがいないとなかなかできないのではないかと思っている。

現地の整備については、できることとできないことがあまりにも大きいと思うのだが、第6貝塚の盛土が長方形になっているのが、上から見た時に興ざめで、水辺の景観ではないと思う。あの辺りを少し整形して、上から見た時にいい感じだなというような整備ができたらいと思う。保存盛土でなかなか改変が難しいということだが、条件等よく検討された方がいいと思う。

あとは、調整池1周が3キロあるのであれば、マラソン大会だとか、散歩だとか、それこそ自転車の大会だとか、そんなことを考えていけばいいし、水辺だったら確かに釣り大会だとか、できないかもではなくて、とにかくアイデアを出すようなプロジェクトチームを是非つくっていただいて、とにかくいっぱいアイデアを練って行って、それを施設整備に反映させるということが大事だと思う。

- ：2つあって、1つは施設の方に関してだが、資料6-02を見ると、例えば収納庫、マニアの人にとっては一番見たいのがそこだと思うのだが、このイメージ図だと、見せないような空間になっている。少しでも見えるような感じにできないのか聞きたい。また、右側の体験交流広場や普及活動エリア、施設前広場などは、共用エリアを中心に、色々体験させていくような場所として使用すると思うが、動線がよくわからない。例えば施設前広場の方から、普及活動エリアや体験交流広場へ自由に行き来ができるようになってくれているのかわかりにくい。使い方については、ワークショップなどで出された意見を踏まえて設計されると思うが、色々な活動がしやすい設計になっていくといいなと思っ

た。

もう1つは、いつも東名縄文館に行って思うのが、アプローチがすごく貧弱だ。橋を渡って行くが、橋も狭いところを通っていかないとならず、行く前に興ざめしてしまう感じがする。例えば、お金がかかるので、できるかできないかはわからないが、施設前広場の方から道路を挟んで南側に渡って、南側は大きく連続する広場にして、そちらから東に、ちょっと立派な橋を架けて、そして縄文館の方に行けるような動線、そういうふうにした方がアプローチとしては立派な感じになると思う。

- ：勤めている館の前に県道がある。その向こうに図書館などがあって、本来そこを結ぶうという話があったが、現状は結んでいない。ここに通りがあると人は絶対に渡らない。帰ってしまう。陸橋で結ぶという案があって、市長からは「展覧会で館外まで人が並んだら陸橋をつくってあげる」と言われているのだが。だから、本当に陸橋か何かで結ばない限りは、多分縄文館に人は行かないと思う。
- ：陸橋ではなくて、平面的に移動するのでもいいと思っている。南側に連続する広場があって、そこから直線的に。今は調整池の駐車場側の方を通って行かないといけませんが、そちらを通らない。むしろ、平面的にグラウンドに近い方から真っ直ぐ行けるようにすれば、1つにはバリアフリーにもいいので、何かそういう計画ができるといいと思う。
- ：道路計画があるという話を聞いているが、周辺には遊休地のようなところがあって、段階的に道路がどう整備されていくのかによって、今回の東名遺跡ガイドランス・埋蔵文化財センターと東名縄文館、それから遺跡とのつながりが大きく変わっていくと思うが、それはどういうプロセスを経て、どういう動線にして、このプランニングを進めていくのかということは、設計の中に組み込まれるのか。次回の委員会で、想定した段階的なプランニングも提案されるのか。
- ：現在の施設用地に隣接して、県道が南側から調整池の西側に新設されるので、この施設の外構工事に合わせて、三叉路部分の工事をしていただくことで協議をしている。令和7年度から開始予定の外構工事までには、施設前の三叉路部分の県道工事は終わっている予定だが、全線の開通はそれより数年後と聞いているので、開通はしない状態での三叉路でしばらく運用することになると思う。縄文館へのアクセスについては、予算の面もあって具体的には検討していない。横断歩道がどこにつくかは、今後、警察関係との協議が必要だが、現状の橋を渡って入るイメージだった。先ほど言われた人が行きたくなるような動線は、具体的には考えていなかった。
- ：ついでに言うと、第6貝塚の方へ行く動線は、先ほど言った縄文館へ直線で結ぶ動線が近いので、こちらを重点的に整備していく方がいいと思う。
- ：幾つかのアイデアが出ていますが、重点を置いて整備していくべき動線を、どの段階で、どういうステージを想定しながら実現していけるのか、そのプランニングを示してほしいと聞こえましたが、よろしいか。
- ：はい。
- ：運営はどうするつもりか。民間に委託するのか。これは結構重要なポイントだと思う。

観光とか、イベントで呼び込むとなった時に、正直行政では厳しいかと思うし、新しいアイデアを取り入れようと思うのであれば、民間を取り入れる必要もある。その形態はPFIとか、色々なやり方があり得るが、その辺はどう考えているのか。

○：今のところ具体的な運営方法について、十分検討は進んでいないが、埋蔵文化財センターという機能を持っているので、直営の職員が常駐し、整備作業等を行うことになる。計画段階では職員が常駐するので、直営で運営をするという方向で考えている。

●：吉野ヶ里遺跡は県と財団が運営しているようだが、この辺、検討が必要ではないかと思った。

この手の施設でもう1つポイントになると思うのが、「お土産と飲食」。この2つは、要るのかと言われる方もいると思うが、結構重要だと思う。確か国の方も、文化財等には集客の仕組みをある程度つくりなさいと言われていていると思う。今、世界遺産関係のガイダンス施設の色々な相談を受けているが、そこでやはり飲食、簡単にはお茶、要は長期時間滞在させるということと、それと体験したものを持って帰る、これはイコール広報作業である。この2つはすごく重要だと思う。これはやはり組み込むべきかと思う。それでは飲食をやると言った時に、本格的なレストランなどは、大変な手間になる。飲み物だけであればそんなに手間にならないのに加えて、ここで体験の内容というのが、例えば縄文時代のハーブティーを出してみるとか、塩の話が出ていたが、製塩をするとか、色々なものを組み込みやすい、土壌としても飲食とお土産というのはすごく使いやすい。この辺は検討された方がいいと思う。

一方で、先ほどのPFIの話になりますが、某市の体験施設についても、色々相談を受けているが、ここは逆にそういうのが全然仕掛け切れずに、今色々苦労されている。そういうことを考えると、お茶とか飲み物とか滞在時間を延ばす、もしくは滞在できる環境を整える、それと買って帰ってもらうものをつくるということ、そしてそこに新しいアイデアとか新しいイベントを入れ続けるというのがすごく重要だと考えている。

○：普及活動エリアで憩いスペースの設置の検討を始めている。ちょっとしたカフェコーナーがつかれないかということで検討している。また、体験活動でつくったものを持って帰ってもらうということについては、東名遺跡は編みかごがたくさん見つかったのが一番の特徴で、他にはないような体験活動がある程度プランニングできると思う。縄文遺跡は西日本では数が少ないので、縄文にちなんだ体験だと近隣では体験できないような活動の展開ができると考えている。

●：本物をつくれる、かごづくり、実際そういう人が人材としているのかというのが一番問題だと思う。短時間で簡単にできるものと、講座等をやって、1年間かけてじっくり本物をつくるもの、両方の仕掛けがあった方がいいと思う。是非人の確保から行って、体験としてやられたら、他にないものができるのではないかと思った。

○：編みかごについては、「縄文の森」で、ムクロジやイヌビワというかごの材料を植栽して、その伐採から始めて、へぎ材をつくってかごづくりをするような、コアな人たち向けの長期的な体験活動ができないかというのも考えているし、来訪者が短時間で、せめて30分から1時間程度でできるようなプログラムがつかれないかということで検討し

たいと思っている。

- ：まだ雲をつかむような部分がかかなりあって、我々の目の前に、ここはこうした方がいいというような具体的に指摘ができるまでに至っていない状況のようだ。次回の委員会までに、どの程度の整理ができるのか。そこを少し明確にさせていただくと議論が進めやすいと思う。教育、それから子どもたちに向けてのメニューを提供していくこと以外に、観光も視野に入っていて、どういうターゲットでどういう滞在時間を目指して、そのための施設がどういうものかという話についても、まだ明確ではない。来た人にどういう動線で、どういうものを提供していくのかということも、道路がまだ決まっていなかったり、色々不確定要素があるので、具体的に提案できないということであるようだし、また、オペレーションの体制も、職員の人、様々なイベント、それから提供のための取り組み、そういったことにコミットできるのかという問題もある。体制については我々もよく経験していることだが、走りながらその辺のところを充実させていくしかないのだというふうにも聞こえる。それも段階を追って、こういう方向でいきたいと提案をしていただくと、私たちもここはこういうことを重視してやっていけばいいよと言えると思うのだが、今のところ、その辺が漠としているので、なかなか言いづらいという印象を持った。

- ：そういう施設を運営している側からのアイデアベースで考えていただけたらいいと思うが、1つは、先ほど意見が出た調査研究エリアの見える化、外から見えるようにするのはすごく重要と思う。整理作業のメインの場面や、色々な場面をお客さんにアナウンスをしながら見せられるようにする。それと、基本的に体験のところで、縄文の体験はあるだろうが、私が中学生の時、担任の先生がたまたま歴史の先生だった関係で、遺跡の発掘現場に連れていってもらったことがある。ハケで延々と泥を落とす作業をやったことがあるのだが、そういうのはよく、動物園などでバックヤードツアーみたいにしてやりますが、そういうのが一部体験できるようにしてあげれば、本当に好きな人たちには刺さるのかなと思った。

それから、史跡地への移動の手段について、セグウェイとかゴルフのカートとか、あいつたものを導入することは検討できないか。電動キックボードとか色々あるので、道路を横断する部分だけ道交法の関係が出るかもしれないが、場合によっては橋を渡ってから乗るとかでもいいと思うが、そういうものがあるかないかで結構違うし、それ自体が呼び物になるかと思った。

普及活動エリアの多目的室や体験学習室があるが、この手の部屋があまり活用されていないケースを結構見る気がする。先ほどカフェの案を出したが、基本的なつくりをカフェにしておいて、例えば什器やテーブルを可動式にして、景観とか雰囲気というのはあくまでくつろげる場所にするとか、そういう工夫があるといいなと思う。

最後に、施設前広場について、色々なイベントを行う時は、自前で全部つくるよりも、キッチンカーに来てもらったりとかテントを張ったりするケースが多い。イベントを運営する側に結構重要になるのが、1つは固定をするものがあるかどうか。例えばテントを張る時も、風が一番大変なんで、ちょっとした金具や出っ張りをそれ用につくってお

くということと、電源があるか、近くに水場があるか、これがあるかないかでイベントを出展する側の認識からすると出しやすいイベント、出しにくいイベントというのがすぐある。設備的には、そんなに大したものではないと思う。もう1つは木などを配置する時も、できるだけテントなどが置きやすいようにフラットにつくるということはずごく重要だと思うので、この辺を検討していただければと思った。

○：今の意見について、こちらの説明が不十分で、調査研究エリアについては、一部見える化が図れるように検討を進めている。体験学習室、多目的室については、なるべく可動式の壁にして、色々な配置ができるような工夫と、憩いスペースとつながるような空間で検討している。特に体験活動室はオープンな感じで、ガラス張りなどで、何をやっているのか見えるような空間にして、それも展示の1つとして、お客さんを誘導するようなイメージで検討を進めている。

施設前広場については、キッチンカーを乗り入れる検討も進めているので、先ほど言われた電源の確保や留め具の設置などの工夫も検討したいと思う。

それと移動手段については、設計協議の中で、セグウェイなど、そういうものを使用したらという意見もすでにあるので、運用の面で、調整池の管理上、使用が可能なのかどうかという確認も必要になってくると思っている。

●：1点お尋ねしたいのが、外観、建物のボリューム、そういったものが案として出てくるのはいつになるのか。私が気にしているのは、パッと出てきたら、どこにでもある集合商業施設のようなものを設置するようなことにだけにはなってほしくないという気持ちがある。お金をあまりかけられないのかもしれないが、それなりにセンスのいい文化的な施設としての外観を保つべきと思う。

○：まだ確定はしていないので、この資料にも出していないが、設計会社の提案では、草屋根にするイメージの提案は出されている。

●：イメージとしては、もう既にあるということか。

○：まだ色々問題がって、検討中である。

●：次回の委員会には、それも出てくるのか。

○：次回の委員会で、パースまで出せるかどうか、少し厳しいかもしれない。ある程度、こういう雰囲気建物という表現で話すことは可能かもしれないが、確実に絵で見せるという段階はもう少し時間がかかるかもしれない。

●：了解した。できるだけ出してもらった方がいいと思う。他に意見はないか。

●：イヌビワやムクロジを植えて、生育させるということも考えたと思うが、「縄文の森」に関して、現状から見るとそれぞれ木はあるが、例えばムクロジだと、谷際にある木で、非常に水が関係するので、環境づくりなどで少し難しいと思うし、イヌビワなんかだと、それなりに植えれば育つのでいいかもしれない。また、縄文時代にどういう木であったというのを、札などを付けて植物園的に見せながら、育てられる木は残すということを考えていったらいいと思った。

もう1つは屋内のイントロ展示で、貝塚の立体的剥ぎ取りを置く計画で、来館者は非常に驚くと思う。個人的には、森林から急に海（干潟）だという地形感があるので、入

口に何か森林を表現するものをつくって、森林から干潟（貝塚）に出るようなイメージにできればと思う。さらに貝塚は、海が満ちれば半分以上沈んでいるという状態になるので、そういう自然環境がわかるような、わかって驚くようなものがイントロ展示にあるといいと思う。

それと、私の孫と子ども夫婦を見ていると、小学生ぐらいの子どもがいる夫婦というのは意外と行動範囲が広くて、広場になっているところに良く行く。そして場所の取り合いみたいなこともある。小さなテントを張って、そこに荷物を入れて、周囲で子どもを遊ばせる。今回のような施設があれば、まず見学をして、その付属の施設で遊ばせるということをやっている。今、非常に流行というか、そういうことを頻繁にやっている。ターゲットをどう絞ってというところで、色々なニーズが考えられるのではないかと思った。

- ：来た人にフレンドリー、ユーザーフレンドリーというか、そういう形で使われやすい、興味ない人でも楽しめる、そういうコンセプトが漂ってくるような、そういう施設でないと駄目なのかなと思う。

ガイダンス施設の話が今中心になっているが、全般を含めて、ここだけはちょっと言い忘れた、あるいは注意しておいてほしいということがあれば意見を出してほしい。

- ：資料6-01のゾーニングで、体験交流広場というのが右上にあるが、ここで色々な体験をすとなつた時に、例えば第6貝塚のエリアとの機能分担がどうなるのか、よく整理をした方がいいと思う。道路を渡ってまで史跡地へ行かないのではないかという話もあるので、施設内で完結できると余計に行かなくなると思う。体験系は第6貝塚の方でできるような形にするとか、そういう観点でもう少し検討していただければと思う。
- ：確かに、施設内で色々できるようにすると史跡地に行かないという懸念もあるので、その辺はきちんと整理して考えたいと思う。
- ：ターゲットをどうするのかということと連動するが、もしある程度、学校とか団体を狙っていくのであれば、体験のスペースというのは一定程度のものが必要になってくると思うので、その兼ね合いも含めて検討いただければと思う。
- ：いっそのこと、ここに発掘現場をつくったらどうか。土を本当に持ってきて、時計などを潜ませておいて、掘ったら持って帰れるような、また埋めてという、少しお金がかかるが、有料にしてもいいと思うので。数千円払っても体験したいという人がいると思うので、史跡地はそういうものにしてみるのも面白いかもしれない。
- ：全国でもそういう疑似発掘体験施設みたいなものを準備している施設も幾つかあったと思う。成功しているところと、そうでないところとあるようだが、うまく組み立ててもらえたら面白いのではないかと思う。

また、史跡地がある調整池には、外来樹木がかなり入っているところがある。特に北側の堤防周辺にいっぱいあって、それを駆除していくことが可能なのか。違う樹種へ転換していくということが可能なのか。ナンキンハゼは奈良でも非常に苦労している樹種で、あまりよくない。来た人にあまりいい印象じゃないし、毒素もあるし、国交省の方で、それは可能なのか。

- ：断定はできないが、堤防の中であれば水がたまる場所なので、貯水容量を減らしているということも考えられるので、切ることは可能ではないかと思う。
  - ：緑林があったり、樹層があるというのは、風景としては非常に望ましいことだが、その樹層を転換していくということは可能なのか。一旦はナンキンハゼを全部駆除してしまう、切ってしまう。根をどうするのかという問題はあるが、それを違う樹種に植えたり、あるいは種を蒔くなど、そういう転換というのは可能なのか。それも、行政がやるというよりも、市民の活動の中でそういうことをやっていくとか、そのようなことは国交省として許容できることなのか。
  - ：はっきりとしたことは言えないが、あくまで調整池として水をためる施設なので、貯水容量を減らすようなことがなければ大丈夫ではないかと思う。
  - ：了解した。今の状態があまりよくないので、うまく転換していけるような、そういう方向が模索できないかと思うし、今の樹種がどういう樹種なのか、どういう樹木、草本類が遊水池の中に生えているのかというのは1回きちんと調査した方がいいと思う。
  - ：今は定期的に動植物の調査は行っていないのか。
  - ：行っていない。
  - ：地元からNPO法人の方が3人出席されているが、何か意見はないか。
  - 関係機関：先日、福井洞窟に見学に行ったが、東名遺跡を位置づけるに当たって、人間の進化というか、人類の営みの中でどういったことがわかったのかということ明らかにしたらいいと思う。みんなが興味を持っているところではないかと思うので。例えば旧石器時代に何ができるようになったのか、ホモ・サピエンスが何ができるようになったのか、そういった中で東名遺跡において、8000年前に植物性の道具を使っていたことが明らかになっているわけだから、展示については、そういった年代といえますか、人間の進化の中で東名遺跡がどう位置付けられるのかを明らかにすれば、いいのではないかと思う。
  - ：ありがとうございます。福井洞窟の話があったが、先ほど事務局からあった説明の中にも今言われたことが含まれているという理解でよいか。
  - ：そう考えていただいていい。
  - ：東名遺跡と福井洞窟との関係というのは、とても大事なことなので、事務局のほうでもそれを視野に入れて、この施設の中できちんと情報提供していけるようにしていきたいということだった。今言われたことは確認の意味で伝わったと思う。
  - ：資料7-02にあるライブカメラだが、これは必要なのか。すぐ横に移動したら実物があるわけで、かえって動線を邪魔しないかという気がする。それよりも、例えば今見られない季節のものとか、鳥とか、いろんなものを動画で撮って出した方がいいのかなと思った。
- 2つ目が、こういう施設には謎解きやワークシートなどあるが、これがあまり本筋と関係なくなったり、どこにでもありそうなものになるケースというのがすごく多い。調整池の特徴で渡り鳥が多いとか、いろんな植物があったり、その辺が面白いと思ったので、今あるものを探しに行こうとか、そういうふうにした方がいいのかなと思った。

- ：こちらの説明不足で、四季変化などの映像について紹介するような記載は少ししている。ライブカメラについては、雨天時に屋上に上がれなかったりするので、そういう時に必要ではないかと考えていたものである。今あるものを探しに行くというのは非常にいい提案だと思うので、検討したいと思う。
- ：現状で、住居址というか、集落跡はもうないのか。
- ：残念ながら、調整池の掘削工事で集落があった部分は完全に無くなっている。
- ：可能かどうかわからないが、三重津海軍所跡でやっているARとかVRで、現地に行った人がゴーグルをつけたり、タブレットなどで当時の風景が今の風景とダブった形で見えるというような、そういう取り組みは難しいものなのか。
- ：どういうハードを使うかによっても大分、表現も難易度も変わると思う。スマートフォンを使って何か見せるということであれば、ある程度のことはできると思う。特にVRなどはできるかと思う。検討の材料の1つであると思っている。
- ：先ほど言った発掘体験だが、教員として一番苦労しているのは、どこで実習をやらせるか、実測の練習をやらせるかということで、遺物の実測は簡単にできるのだが、現場の実測は難しい。壁にテープで張って、土層を実測させる練習をやっているが、是非そういう教材としても活用できるように、埋葬人骨を入れた土坑をつくって、掘り当てたら図面を描くような、学生の教育にも使えるし、新人の職員が入ったら、そこで研修ができる。発掘件数は今からだんだん減ってくると思う。そういう意味で発掘を体験できる、本当の意味で経験できるようなものをつくと意外と利用があるのかなと思う。子どもたちに、例えば土層等をなぞらせて図面ができる仕組みを学ばせるとか。
- ：いろんなアイデアが出てきたので、是非取り込める方向で検討してほしい。
- かなりたくさんの方の根幹に関わる本質的な問題から、非常に細かな指摘、提案に至るまで、豊かにご提案をいただき、いい議論になったのではないと思う。市の方でできること、できないこと、段階的にどういうふうの実現していけるのかというプロセスもよく関係機関と調整していただいた上で、次の会議が実り多きものになるように、また、効率的に議論ができるように準備をしていただければと思う。
- ：委員の皆様、本日はどうもありがとうございました。今回の会議で頂戴した意見につきましては、事務局の方で整理をいたしまして、検討を進めていきたいと思っております。
- それでは、本日の会議はこれで終了させていただきます。長時間にわたり、ありがとうございました。